



第8回やまぐち高校生県議会 に参加してきました！！

山口・防府地域版

R4.11.1 開催



本会議場で挨拶をしました。

高校生県議会って？

次代を担う県内高校生に県議会の役割や県行政への理解と関心と高めてもらうため、平成27年度から実施されている模擬議会

高校生県議会 次第

- 議長開会宣言
- 知事あいさつ
- 高校生議員の自己紹介
- 高校生議員からの質問及び執行部答弁
- 高校生県議会からの意見書の提出・採決
- 高校生議員代表まとめあいさつ
- 議長閉会あいさつ

【山口・防府地域の高校生議員の皆さん】

(防府西高等学校)小嶺夢叶・林真誠、(山口高等学校)伊藤大然・中村篤希、(山口農業高等学校)三上祐飛・宮内風香、(野田学園高等学校)沖村直哉・柘植衣花・村岡将多 ※敬称略

【問】高齢者が免許返納後に活
用しやすい交通機関や交通シ
テムの充実について具体的な取
組を伺う。

【答】各市町において、利用者
の予約に応じて運行されるデマ
ンド型乗合タクシー等の導入や
運行等の取組を支援し、効率的
で利便性の高い移動手段の確保
に努めているほか、ノンスレッ
プバスの導入等、公共交通機関
のバリアフリー化を進めるとと
もに、交通系ICカードや運行
状況が一目で把握できるバスロ
ケーションシステムを導入する
等、高齢者が安心して利用でき
る環境整備への支援にも取り組
んでいる。



質問に立つ
三上議員

【問】健康づくりのきつかけと
なるよう、専用サイト「健康や
まぐちサポートステーション」
を開設し、県内で開催される健
康講座やウォーキング大会など、
家族と一緒に楽しめるイベント
情報を広く発信しているほか、
今月26日に開催する健康づくり
フォーラムにはぜひ家族と一緒に
参加し、家族ぐるみでの健康
づくりにつなげてほしい。

【答】健康づくりのきつかけと
なるよう、専用サイト「健康や
まぐちサポートステーション」
を開設し、県内で開催される健
康講座やウォーキング大会など、
家族と一緒に楽しめるイベント
情報を広く発信しているほか、
今月26日に開催する健康づくり
フォーラムにはぜひ家族と一緒に
参加し、家族ぐるみでの健康
づくりにつなげてほしい。

【問】家庭や地域で、若い世代
と親や祖父母の世代が一緒に
なって生活習慣の改善に取り組
むイベントをこれまで以上に充
実できないか伺う。

【答】健康づくりのきつかけと
なるよう、専用サイト「健康や
まぐちサポートステーション」
を開設し、県内で開催される健
康講座やウォーキング大会など、
家族と一緒に楽しめるイベント
情報を広く発信しているほか、
今月26日に開催する健康づくり
フォーラムにはぜひ家族と一緒に
参加し、家族ぐるみでの健康
づくりにつなげてほしい。

伊藤議員（山口高）と三上議員（山口農業高）が、
山口・防府地域を代表して質問をしました！



質問に立つ
伊藤議員

質問と答弁 (全文)

<質問：伊藤議員（山口高）>

私は高校入学時に広島県から引っ越して山口高等学校へ入学しました。それから1年、山口県は自然に囲まれ地域間での交流も盛んな場所だと知ることができました。

一方で、多くの課題にも気づかされました。その中でも特に大きい課題は高齢化です。実際に本県では全人口に対して半数に近い割合で高齢者の割合が増加しています。このような高齢化への取組も必要なのはもちろんですが、高齢化が進んでいくからこそ、高齢者がよりよい暮らしを送ることができるまちをつくり上げていくことも、また重要であると考えました。

そこで私は、2つの質問をさせていただきます。

1点目は高齢者の免許返納後の交通手段についてです。山口県では今年の8月末時点で、交通死亡事故における高齢ドライバーの割合が47.4%と全世代の中で最も高く、積極的な免許返納が推進されています。

ただ、本県は他県と比べて公共交通機関が充実しておらず、生活必需品の買物や通院など返納後の生活への支障が大きいという現状があり、免許を返納しやすい環境ではないと言えます。

そこで昨年、私は総合的な探究の時間で、高齢者の免許返納後の交通手段に焦点を当てて探究活動を行いました。地域の高齢者の方たちにアンケートを行い、免許返納率や返納後の交通手段について調査を行いました。

その結果として、車に代わる公共交通機関の利用に前向きな姿勢を示す高齢者の割合は低く、返納後の生活に不安を抱く声が多く集まりました。加えて、この探究活動を通じてシニア層の就業意欲が高まっていることも分かりました。職場までの交通手段の充実化は、地域を支える担い手としてのシニア層の活躍の場を創出する可能性も期待できます。

以上を踏まえ、高齢者が利用しやすい交通機関を整備することは、高齢者が暮らしやすい元気な山口県をつくり上げていく上で大きな意味を持つと考えます。

そこで、1つ目の質問です。山口県として高齢者が免許返納後に活用しやすい交通機関や交通システムの充実について具体的な取組をお考えでしょうか、お聞かせください。

2点目は若者との関わり方についてです。本県ではやまぐち元気生活圏という取組が行われています。この取組は高齢化の割合が増加した中山間地域での人手不足などを、若者の力を借りてカバーしていくというものです。

メリットとして、集落の枠を超えた範囲で日常生活に必要な機能がサービスが拠点化されることによって、高齢者を含めた幅広い世代が共に暮らしやすい環境が生まれるということが上げられます。

しかし、現状ではこのやまぐち元気生活圏の認知度は低く、特に若者に対する認知が行き届いていないと考えます。学校との連携も見据え、若者に届く広報活動を図り、認知度を高めていくことで、この取組に携わる若者が増え、中山間地域のみならず山口県全体の活性化につなげることができると考えます。

そこで2つ目の質問です。若者へのやまぐち元気生活圏の認知度を向上させるための具体的な取組をお考えでしょうか、お聞かせください。

以上、2点について質問させていただきます。

<答弁>

○知事

山口高等学校、伊藤議員の御質問のうち、私からは高齢者

の免許返納後の交通手段についてのお尋ねにお答えします。

全国より早いスピードで人口減少や少子高齢化が進む本県において、高齢者が生涯にわたって地域で活躍するためには、免許返納後における就労等の活動のための移動手段を確保することが大変重要です。

このため、私はバリアフリーの観点も踏まえながら地域の実情に即して、高齢者にとって利便性の高い公共交通の確保・充実を図っていくことにしています。

具体的には、各市町において利用者の予約に応じて運行されるデマンド型乗合タクシー等の導入や運行などの取組を支援をしているところでありまして、効率的で利便性の高い移動手段の確保に努めているところです。

また、ノンステップバスの導入など公共交通機関のバリアフリー化を進めるとともに、交通系ICカードの導入や運行状況が一目で把握できるバスロケーションシステムの導入など、高齢者が安心して利用できる環境整備への支援にも取り組んでいます。

さらに、今後各地域において、AIを活用したデマンド型乗合タクシーや自動運転など、高齢者の多様なニーズに対応できる新たな移動サービスの導入が一層進むよう、先進的な取組事例等の情報提供や導入に向けた助言などの取組を行っているところです。

私は、今後ともこうした取組を進めることにより、免許返納後の高齢者が利用しやすい地域公共交通の確保・充実を図ってまいります。

伊藤議員をはじめ高校生の皆さんも、高齢化の進む本県の様々な課題解決に向けて、これからも柔軟な発想で対応策を考えていただくようお願いいたします。

○総合企画部長

やまぐち元気生活圏の認知度向上についてのお尋ねにお答えします。

中山間地域においては、商店の廃業や路線バスの廃止等により日常生活に支障を来す地域もあることから、県では広域的な範囲で、集落機能や日常生活を支え合うやまぐち元気生活圏づくりを推進しています。これまでに中山間地域のある全18市町が取組に着手し、現在71地域で具体的な活動が進められています。

伊藤議員が暮らししておられる山口・防府地域においても、空き店舗を活用したミニスーパーの運営や移動販売の実施、SNSを活用した災害情報やイベント情報の発信など、地域団体等が中心となった様々な活動が展開されています。

こうした中、さらなる元気生活圏づくりの推進に向けては、その認知度を高め、皆さんのような若者や企業等を含めた幅広い人材の力を結集して進めていくことが重要です。

このため県では、ホームページや特設サイトで中山間地域の魅力を発信するとともに、新たな地域づくりの担い手を確保・育成するためのシンポジウムや研修会を開催しています。

また、県内の大学生等と連携し、特産品開発や交流促進など、若者の行動力や柔軟な発想を生かした地域づくり活動も進めています。

今後の認知度向上に向けては、議員の御提案を踏まえ学校等との連携を一層強化し、中山間地域に対する理解を深めていただくための県政出前トークなどの取組を積極的に実施していきます。

また、若い世代に効果的なSNSを活用した情報発信など、若者に届く広報の充実を図り、中山間地域を支える人材の創出・拡大につなげてまいります。

質問と答弁 (全文)

<質問：三上議員（山口農業高）>

私からは、生活習慣病への対策について、2点質問させていただきます。

1点目は、生活習慣病に対する県民の関心を高めることについてです。

山口県の健康増進課のホームページによると、県内の全死因の半数以上が生活習慣病に関連するものでした。しかし、この生活習慣病に関する現状を理解し、自身や周りの人の生活習慣の改善につなげることができている人は、特に若い世代においては多くないように感じます。県民に生活習慣病に関する山口県の現状を広く知ってもらい、一人一人の生活習慣の改善につなげてもらうことで、健康寿命を延伸し、少子高齢化が進む中であっても、活力あふれる山口県をつくっていくことができるのではないのでしょうか。私たち若い世代も、生活習慣に関する関心を高め、自分自身の健康を守るとともに、周りの親や祖父母の世代の方にも長く健康でいてもらえるよう力になりたいと思っています。

そこで、1つ目の質問です。若い世代に対して、生活習慣病に関する山口県の現状を広く知らせるために、YouTubeやSNSを活用し、情報発信をより積極的に行うことはできないでしょうか。

2点目は、県民の生活習慣の改善に対する支援についてです。

山口県では、「誰もがやまぐちでいつまでもいきいきと暮らせる健康づくり」を目標に、県民の健康づくり対策に取り組んでいます。また、健康やまぐちサポートステーションのウェブページで、健康づくりや生活習慣病に関する様々な情報を発信しています。

しかし、厚生労働省の令和元年国民健康・栄養調査によると、4人に1人が食習慣・運動習慣を、関心はあるが改善するつもりはないと回答しています。改善するつもりがある人については、健康な食習慣や運動習慣定着の妨げとなる点として、仕事（家事・育児等）が忙しくて時間がないことと回答した割合が最も高くなっています。このような状況の中で、生活に追われて健康意識を持ってない、健康を守れないといった人たちに働きかけを行い、健康格差を縮小していくことができます。重要になってきています。私たちは、一生懸命働き、生活に追われる人が健康を失ってしまう山口県にはなってほしくないと思っています。

そこで、2点目の質問です。家庭や地域で、若い世代と親や祖父母の世代が一緒になって生活習慣の改善に取り組むイベントをこれまで以上に充実させることはできないでしょうか。私たちは、親や祖父母、身近な大人のことを大切に思っていますし、健康でいてほしいと思っています。しかしそれを直接伝えることは、恥ずかしく感じ、なかなかできていません。生活習慣の改善に取り組む活動をきっかけとして、私たち若い世代から、健康を大切にしてほしいこと、生活習慣を見直してほしいことなどを伝えることができるのではないかと考えています。人とのつながりの中で、山口県民が自身の健康や生活習慣に関心を高める機会となつてほしいと思っています。

以上、2点について質問させていただきます。

<答弁>

○知事

山口農業高等学校、三上議員の御質問のうち、私からは、県民の生活習慣の改善に対する支援についてのお尋ねにお答えします。

本県においては、がん、心疾患、脳血管疾患の三大生活習慣病が死因の半数を占めていることから、県民誰もが生涯を通じて、健やかに心豊かに生活するためには、生活習慣の改善など、主体的に健康づくりに取り組むことが重要と考えています。

また、健康づくりは、無理なく楽しく継続的に取り組むことが大切であることから、三上議員のお示しのとおり、家庭や地域で、若い世代と親や祖父母の3世代が一緒になって取り組める環境の整備が必要です。

このため、県では、健康づくりのきっかけとなるよう、専用サイト「健康やまぐちサポートステーション」を開設し、県内で開催される健康講座やウォーキング大会など、家族と一緒に楽しめるイベント情報を広く発信しています。

また、専門家等から直接学ぶ機会として、健康づくりに関するフォーラムを実施しており、今月26日には、生活習慣病の特徴や予防をテーマに、山口市で開催することとしています。

このフォーラムに、ぜひ多くの方々に家族と一緒に参加をしていただき、御自身の生活習慣を見直し、家族ぐるみでの健康づくりにつなげていただきたいと思います。

さらに、県民の皆様が日常的に、気軽に楽しみながら健康づくりができるよう、県では、スマートフォンを活用した、やまぐち健幸アプリを開発し、現在5万ダウンロードを超えるなど、多くの方に利用いただいています。

このアプリは、年代、地域、企業、家族、友人単位でゲーム感覚で歩数を競い合う機能があり、こうした機能を活用した取組を一層充実してまいります。

人生百年時代と言われる中、私は、誰もが健康で元気に活躍できる社会の実現に向けて、県民の皆様の主体的な健康づくりを支援してまいります。

若い世代は、生活習慣が定着する重要な時期です。三上議員をはじめ、高校生の皆さんも、身近な方を誘って、自らの健康づくりに取り組んでいただきますようお願いいたします。

○健康福祉部長

生活習慣病の周知と対策についてのお尋ねのうち、県民の関心を高める取組についてお答えします。

生活習慣病の予防には、病気と適切な生活習慣に関する県民の理解を深めていただくことが重要であることから、県では、生活習慣病の現状や健康づくりの基礎知識等をホームページに掲載し、広く周知に努めているところです。

周知に当たっては、三上議員のお示しのとおり、若い世代に、病気について理解していただくとともに、若い皆さんのお力もお借りしながら取り組んでいくことが必要と考えています。

このため、県では、より多くの若い世代に関心を持っていただけるよう、ホームページに加え、今後は、若い方が日常的に利用しているSNS等を活用し、生活習慣病に関する情報発信の充実にも努めてまいります。

また、県内の大学生等を対象に健康に関する知識を学び、家族や友人等へ広める役割を担う、やまぐち健康応援学生サポーターを養成しているところです。

このサポーターは、自ら健康づくりを実践するだけでなく、同世代の健康意識の向上や、家族等の生活習慣の改善などの啓発活動にも取り組んでいただいております。そのさらなる拡充に努めてまいります。

県としては、県民挙げて健康づくりを実践することができる環境づくりに向け、今後とも、情報発信に積極的に取り組んでまいりますので、三上議員をはじめ、高校生の皆さんも御協力いただきますようお願いいたします。

第8回やまぐち高校生県議会で採択された意見書

交通事故減少に向けた自転車道整備を求める意見書

私たち高校生が頻りに利用する移動手段として自転車がありますが、自転車と車両、歩行者の接触事故が県内でも多数発生しています。県内の車道を通行する際、自転車と車両の距離が近く、危険な場所は少なくありません。また、歩行者と自転車が同じ一つの歩道を利用していることが原因での接触事故が多いことが挙げられます。特に、学校周辺の道路が狭い道が多いことや、交通量の多い道路に面している学校が多く通学時には危険な場面が度々見られます。

そこで、これらの問題を解決するために私たちは、「自転車道の整備」を提案いたします。自転車が安全に通行できる道路整備を進めることで、歩行者や自動車の安全確保にもつながります。特に、学校周辺や交通量の多い道路において、歩行者、自転車、自動車それぞれが安全に通行できる道路の整備を行うことで、老若男女問わず安心安全に住みやすく、生活しやすい街になると考えられます。

また、近年、地球温暖化の進行する中で、二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として自転車の注目度は高まっています。自転車の利用を促進していくためにも、歩行者と自転車が分離された通行空間の整備に取り組む必要があります。

そのほかにも、公共交通機関が充実していない地域を多く抱える本県では、自転車を移動手段として選択する方は多くなっています。さらに、高齢化が進む我が県で、

路線バスの廃止等、地域公共交通サービスをめぐる環境が厳しさを増す一方、高齢者の運転免許証返納者数が年々増加し、高齢者で自転車を移動手段として利用する方は増加傾向になると私たちは考えます。県内の交通事故による死亡者、負傷者共に高齢者が多く、一層の注意が必要なものとなります。

これから自転車を利用する人が、安全にルールを守って利用できるように、そして、普段から通勤・通学や移動の手段として自転車を使用する方が、より安全で便利な二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として利用できるよう、自転車道の整備を求めます。

令和4年11月1日

第8回やまぐち高校生県議会 議員一同

(代表提案者：野田学園高等学校 村岡 将多君)



提案理由を説明する村岡議員

高校議員代表まとめあいさつ

本日は、第8回やまぐち高校生県議会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

事前学習会や本日の議場での質問など、普段の学校生活では経験できない多くの学びを得ることができました。

8月に開催された事前学習会の中で、山口県の最重要課題は人口減少と少子高齢化であるというお話を伺いました。山口県の人口は昭和61年以降減少が続いています。

国においても、平成20年をピークに人口は減少しており、令和35年には、人口が1億人を割り込むと推計されています。こうした中、山口県では、やまぐち維新プランで、妊娠・出産、子育てと続く切れ目のない支援を行っておられます。それもあってか、令和3年の山口県の合計特殊出生率は1.49で、全国平均の1.30を上回っています。一方、YY!ターン支援など、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた山口県への移住促進に取り組んだり、やまぐち維新プランにより働きやすい環境を整えているにも関わらず、国立社会保障・人口問題研究所による第8回人口移動調査では、山口県のUターン率は全国平均の43.7%を下回る40.0%でした。

山口県が住みやすく働きやすい、そして、子育てしやすい地域であるという認識が県内外に浸透していないのか、現状は転出超過が続いています。

私たちは情報発信にたけた世代です。私たち高校生が山口県の魅力をしっかり学び、体験し、実感することで、卒業後にそれぞれの場所で山口県の持つ多彩な魅力を広く伝えられればと思います。

今年4月に民法が改正され、成年年齢が18歳に引き下げられました。私たちは在学中に成年を迎え、大人として社会に出ていくこととなります。

昨年の衆議院議員選挙では、山口県の投票率が最下位であったとのニュースを見ました。中でも20歳以下の投票率は著しく低く、私たち若者が政治を自分ごととして捉え、選挙に積極的に参加する必要があると感じました。私も一人の社会人として、必ず選挙に参加します。

結びに、山口県民の一員として持続可能な未来社会の創出に貢献し、「活みなぎる山口県」の実現のため、積極的に尽力し続けることを宣言し、決意表明とさせていただきます。

高校生議員代表 大津緑洋高等学校日置校舎

鴨川依乃梨さん



決意表明する鴨川議員